

TPP日米閣僚協議終了後の甘利大臣ぶら下がり記者会見概要

○平成26年9月24日 18:00 (現地時間)
○ワシントンD.C. ナショナルプレスビルディング

【冒頭発言】

フロマン代表との間で日米間の残された課題、すなわち農産品と自動車について率直に意見交換を行った。ぎりぎりの交渉を続けてきており、当方は柔軟性のある案を示したが、今回の交渉では進展を得ることができなかった。交渉をまとめるには、双方が歩み寄るという姿勢が必要である。今後の段取りについては未定である。

【質疑応答】

(記者)

今回の目標としては、政治レベルで判断すべきものは全部決めたい、そうでないと年内合意に赤信号が灯るということだったが、今後の予定はどうなるのか。

(大臣)

日米間については未定。2～3の国を除き、多くの国とは交渉が相当進展しているので、これらの国との交渉を加速させたい。

(記者)

今回を最後にしたいとのことだったが、今後の予定は全くみえないのか、もう一度閣僚協議を行う予定か。

(大臣)

日米については予定はない。

(記者)

今回日米の政治レベルで合意しないと、全体の年内合意は赤信号とのことだったが、年内合意の見通し如何。

(大臣)

日米間では議論がかみ合わなかったが、日本は他の国とは二国間の交渉がハノイからずっと進展しているので、これを加速させたい。その先に12か国の閣僚会合があると思う。

(記者)

柔軟性のある提案に対する米側の評価は。

(大臣)

一定の評価を得られたが、それから先の議論がかみ合わなかった。

(記者)

米国に譲歩の姿勢は見られなかったのか。

(大臣)

当方の提案に見合ったものだとはいえられなかった。

(記者)

今日は午前中に1時間協議を行っただけだと思うが、その後フロマン代表と調整はあったのか。

(大臣)
ない。事務方で協議を行っていた。

(記者)
柔軟性のある提案とは、農産品5品目や自動車についてだと思ってよいのか。

(大臣)
米国から特に検討してほしいといわれていた分野について。自分から相当突っ込んだ指示を出し、交渉に耐えられるものを出して米側からも一定の評価を得たが、これを受けて更なる進展にはつながらなかった。

(記者)
牛や豚のセーフガードの発動についてか。

(大臣)
詳細は申し上げられない。

(記者)
更なる閣僚協議を米国はやりたがっているのか。

(大臣)
それはわからない。

(記者)
近々閣僚会議が行われると思うが、年内合意は難しそうか。

(大臣)
現時点ではわからない。今後他の二国間の交渉を加速させていくということに尽きる。

(記者)
今回の日米協議で進展が見られなかったことで、TPP全体が漂流するのではないか。

(大臣)
柔軟性のある提案に対し、議論がかみ合わなかった。日本としては、ほかの国との交渉を加速することによって貢献していきたい。

(記者)
日本が柔軟性のある提案をしたことにより、米側は更なる柔軟性を求めているのか。

(大臣)
米国はいつも更なる柔軟性を求めている。交渉ではお互いが歩み寄るという姿勢が大事であり、一方だけではうまくいかない。

(記者)
決裂したということか。

(大臣)
そういうことではない。ただ、進展を得ることができなかった。

以上